

キュウリうどんこ病菌の薬剤感受性

福島県農業試験場病理昆虫部
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜－キュウリ－病害虫防除
分類コード 03－01－23000000
- 2 担当者 芳賀紀之・堀越紀夫・平子喜一
- 3 要 旨

キュウリうどんこ病に対する防除薬剤の感受性低下が疑われるため、郡山市（農業試験場内）、福島市、須賀川市のうどんこ病菌に対する薬剤感受性を検討した。

（1）ほ場試験（農業試験場内）では、アゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル）、チオファネートメチル水和剤（トップジンM水和剤）、トリフルミゾール水和剤（トリフミン水和剤）の防除価が低かった。このことは2003年の結果と同様の傾向を示し、これらの要因は耐性菌と考えられた。

（2）幼苗検定（うどんこ病菌接種）では、アゾキシストロビン水和剤、チオファネートメチル水和剤、ミクロブタニル水和剤（ラリー水和剤）は、供試した3ほ場のうどんこ病菌で防除効果が低かった。農業試験場内のうどんこ病菌では、同一系統薬剤であるラリー水和剤とフェナリモル水和剤（ルビゲン水和剤）は、ともに防除効果が低かった。

（3）以上の結果から、県内のキュウリうどんこ病菌においてストロビルリン系剤（アゾキシストロビン水和剤）、DMI剤（トリフルミゾール水和剤、ミクロブタニル水和剤、フェナリモル水和剤）、ベンゾイミダゾール系剤（チオファネートメチル水和剤）の薬剤感受性低下が確認された。

4 その他の資料など